

D リスニング

1 リスニングの概要

(1) リスニングを実施する教科・科目

リスニングは外国語「英語」の一領域として実施します。外国語において「英語」を選択する受験者は、原則として、筆記とリスニングの双方を受験してください。

なお、「英語」以外の外国語の筆記を受験した場合、リスニングを受験することはできません（→p.3）。

(2) 試験時間・解答時間

リスニングは、IC プレーヤーを使用し、受験者が個々に音声を聞き取りながら解答する試験です。試験時間 60 分の中で、解答開始前に IC プレーヤーの操作準備・作動確認・音量調節を受験者各自で行った後、30 分間で解答します（→p.40）。

なお、筆記とリスニングの間には、休憩時間が設けられています。

(3) リスニングにおける受験上の配慮

病気・負傷や障害等のために、リスニングにおいて配慮を希望する者は、受験上の配慮を申請してください（→p.15）。

(4) イヤホン不適合措置

リスニングで使用する IC プレーヤーに付属しているイヤホンが耳に装着できないため、ヘッドホンの貸与を希望する場合は、「イヤホン不適合措置」を申請してください（→p.44）。上記(3)の受験上の配慮とは申請方法が異なるので注意してください。

2 リスニング受験上の注意

(1) リスニングでは、遅刻者の試験室への入室限度が他の試験時間と異なります。**試験開始時刻（17:10）までに入室していない場合は受験することができないので十分注意してください。**

(2) リスニングでは、他の受験者の聞き取りに支障を来す不必要な音をたてることがないように注意してください。

(3) IC プレーヤーのボタンを長く押し続けてもランプが光らなかったり音声流れなかったりした場合や、音声途中で停止するなど聞き取れなくなった場合、問題冊子の乱丁、落丁等、解答に支障がある場合は、ためらわずに黙って手を高く挙げて、監督者に知らせてください。

なお、**試験が終わってからこれらを申し出ても、救済措置（再開テスト）はありません（→p.45）。**

(4) 解答時間中の質問は、一切受け付けません。

3 リスニングの進行

(1) リスニングの進行の概要

外国語(筆記)試験

16:30 外国語(筆記)試験終了

この休憩時間中に

- 携帯電話やスマートフォン、時計など音の出る機器のアラーム設定を解除し、機器の電源を切る。

17:05 受験者入室終了

17:10 試験開始 (*この時刻までに必ず入室)

- 問題冊子、解答用紙配付
- 解答用紙に、受験番号・氏名・試験場コードを記入・マークする。
- IC プレーヤー、イヤホン、音声メモリー配付
- 監督者の指示に従い、IC プレーヤーの操作準備を行う。

確認はじめ
(監督者指示)

確認音声

(約 2 分間)



- 確認音声(試験問題ではない)を聞いて、IC プレーヤーが正常に動くことを確認し、音量を調節します。

解答はじめ
(監督者指示)

問題音声
(約 30 分間)



- 再生ボタンを押した後は、試験終了まで自動的に音声流れるので、問題音声の進行に従って、問題を解答します。
問題音声は設問ごとに2回流れます。また、1回目の音声と2回目の音声が終わった後にはそれぞれ、解答するために音声流れない時間があります。
- 解答は、必ず設問ごとに解答用紙にマークします。問題冊子に記入しておいて、解答時間の途中や最後にまとめて解答用紙にマークしてはいけません。

解答やめ
(監督者指示)

18:10 試験終了

- 答案回収
- IC プレーヤー・イヤホン・音声メモリー回収

受験者退室

【IC プレーヤーの操作】

1

監督者の指示後、解答用紙裏面のイラスト(→p.41)に従い、「電源ボタン」を「電源ランプ」が緑に光るまで長く押し続ける。

2

監督者の指示後、解答用紙裏面のイラスト(→p.41)に従い、イヤホンを耳につけ、「確認ボタン」を、「作動中ランプ」が赤く光るまで長く押してから、音声を聞きながら音量つまみを回して音量を調節する。



音声中の指示でいったんイヤホンを耳から外す。

3

監督者の解答開始の指示後、解答用紙表面のイラスト(→p.42)に従い、イヤホンを耳につけ、「再生ボタン」を、「作動中ランプ」が赤く光って音声聞こえるまで長く押し続ける。



* 音声に不具合等があれば、ためらわずに、黙って手を高く挙げる。(→p.45)



音声中の指示でイヤホンを耳から外す。

(2) 試験終了後の IC プレーヤー等の取扱い

IC プレーヤー、イヤホン及び音声メモリーは、試験終了後に回収します。ただし、問題冊子は持ち帰ってください。なお、問題音声は、試験終了後に大学入試センターのホームページ(→裏表紙)で確認することができます。

(3) ICプレーヤーの操作

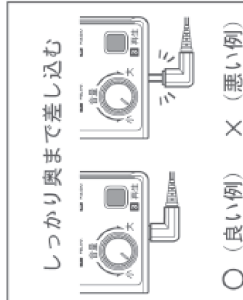
ICプレーヤーの操作は、解答用紙裏面及び表面のイラストに従い、①～④を受験者が各自で行います。⑤～⑦及び表面のイラスト（→p.42）については、それぞれ監督者の指示があるまで行うことができません。

＜ICプレーヤーの準備方法＞

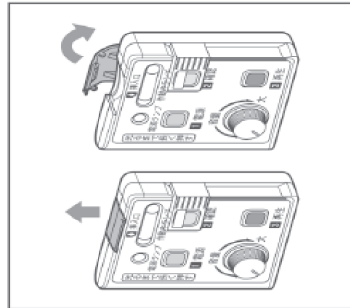
裏面

①～④を各自で行ってください。分からないことがあったら、手を挙げて知らせてください。⑤～⑦は指示があるまで行わないでください。

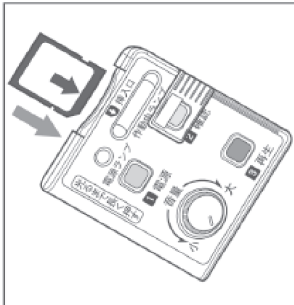
① ICプレーヤーに差し込まれたイヤホン、念のため、もう一度押し込み、奥までしっかりと差し込まれていることを確認した後、イヤホンの「コードどめ」をほどく。



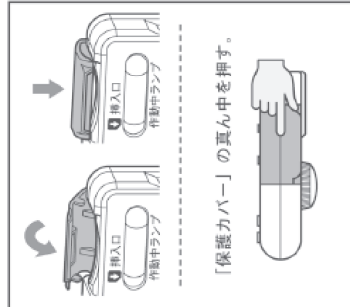
② ICプレーヤーを持ち、音声メモリーの「保護カバー」を上方向に開ける。



③ 音声メモリーを袋から取り出す。ICプレーヤー表面が見えるようにした状態で、矢印の面を表にし、奥に突き当たるまでしっかりと差し込む。

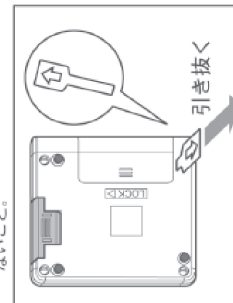


④ 「保護カバー」を閉じる。なお、閉じる際は、「保護カバー」の真ん中を押す。



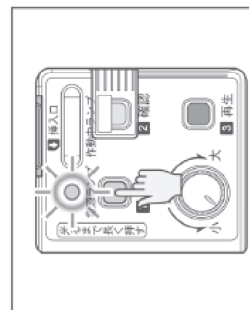
⑤ ICプレーヤー裏側の「絶縁シート」を引き抜き、ICプレーヤーが入っていた袋の中に入れる。

(注1) 引き抜く時に表面のボタンを押さないように注意すること。
(注2) 次の指示があるまで、⑥には進まないこと。

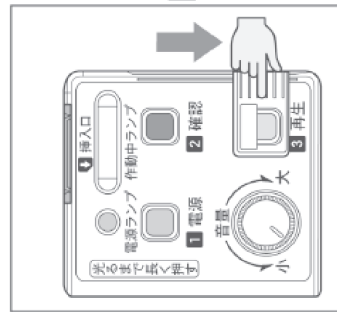


⑥ ①の「電源ボタン」を、「電源ランプ」が光るまで長く押し続ける。

(注) 次の指示があるまで、⑦には進まないこと。

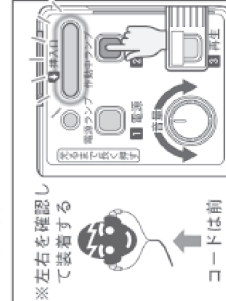


⑦ ICプレーヤー右側の「スライドカバー」を下方向に移動させる。



イヤホンの左右を確認してから、耳に付け、②の「確認ボタン」を、「作動中ランプ」が光るまで長く押し続ける。

「作動中ランプ」が光ったら音量つまみを回して、聞きやすい音量に調節する。



⑤～⑦は、それぞれ監督者の指示を待つこと

英語（リスニング）解答用紙

表面

マーク例

良い例	悪い例
●	○
●	⊗
●	⊙

① 受験番号を記入し、その下のマーク欄にマークしなさい。

受験番号欄			
千位	百位	十位	一位 英字
-	0	0	(A)
1	1	1	(B)
2	2	2	(C)
3	3	3	(H)
4	4	4	(K)
5	5	5	(W)
6	6	6	(R)
7	7	7	(U)
8	8	8	(Y)
9	9	9	(V)
-	-	-	(7)

A B C H K M R U X Y Z



② 氏名・フリガナ、試験場コードを記入しなさい。

フリガナ										
氏名										
試験場コード	十萬	万位	千位	百位	十位	一位				



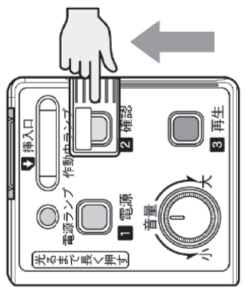
注意事項

- 訂正は、消しゴムできれいに消し、消し残してはいけません。
- 所定欄以外にはマークしたり、記入したりしてはいけません。
- 汚したり、折りまげたりしてはいけません。
- 音声の停止等のICプレーヤーの不具合や、問題冊子の異常で解答に支障がある場合は、ためらわずに黙って手を高く挙げなさい。監督者が筆談用の用紙を渡しますので、トラブルの内容を記入しなさい。試験が終わってから申し出ることはできません。

「解答はじめ」の指示があったら、次の手順で操作すること。

解答開始時の操作手順

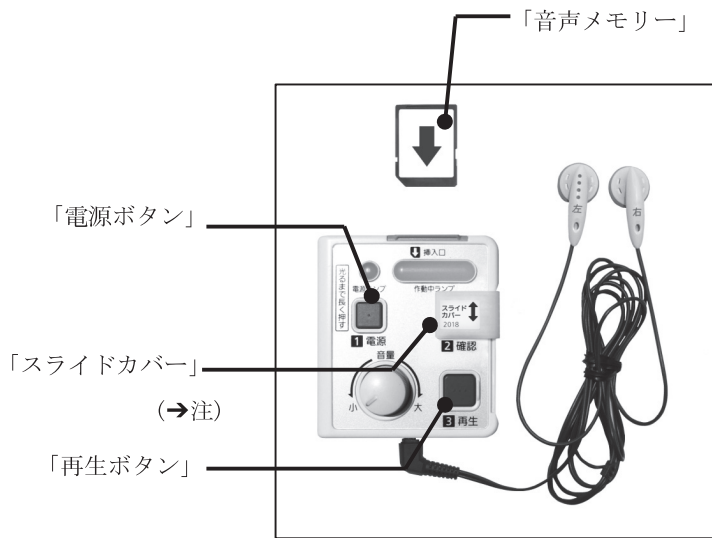
- イヤホンの左右を確認しながら、耳に付ける。
- 「スライドカバー」を上方向に移動させる。



- ③ 「再生ボタン」を「作動中ランプ」が光るまで長く押し続ける。

以後は、問題音声の進行に従って、解答しなさい。

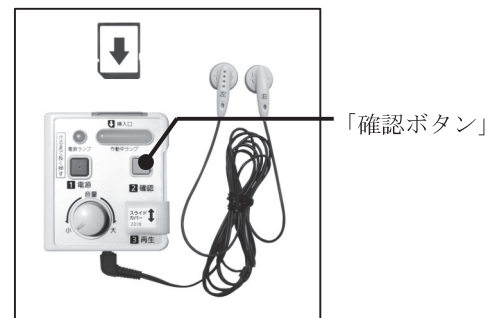
【参考】 各部の名称



(注) 配付時は「確認ボタン」の上に配置され、「確認ボタン」を押す直前に「再生ボタン」の位置までスライドさせます。
同様に「再生ボタン」を押す直前に「確認ボタン」の位置にスライドさせます。



※ 保護カバーを開けた状態



※ スライドカバーを下に移動させた状態

リスニング
D

(4) IC プレーヤーの操作の注意点

- ① IC プレーヤーは各ボタンを単にひと押ししただけでは、作動しません。**1**電源ボタンは電源ランプが緑に光るまで、**2**確認ボタンと**3**再生ボタンは作動中ランプが赤く光るまで、長く押し続けます。
- ② **1**電源ボタン、**2**確認ボタン、**3**再生ボタンの順番を守らない操作は受け付けません。
「確認ボタン」を押し、確認音声を聴取した後でないと「再生ボタン」を押しても問題音声は流れません。
- ③ 各ボタンを押した後に音声メモリーを引き抜くと、再び音声を再生することができません。
音声メモリーを差し込み、保護カバーを閉じた後は、保護カバーを開けないでください。
- ④ IC プレーヤーには「一時停止」，「早送り」，「巻き戻し」の機能はありません。

4 IC プレーヤーの操作体験

大学入試センターのホームページ (→裏表紙) にある「IC プレーヤー操作ガイド」では、IC プレーヤーの操作を体験することができます。IC プレーヤーの 3 つのボタンの長押しの方法や操作上の注意事項、リスニングの流れが分かるようになっています。

また、これまでの試験で実際に使用された問題音声を聞くことができます。

5 イヤホンが装着できない場合

(1) イヤホン不適合措置

試験で使用するイヤホンが耳に装着できない者には、試験時間中にヘッドホンを貸与します。ヘッドホンの貸与を希望する場合は、**出願時に申請する**必要があります。

(2) イヤホンの装着具合の確認

出願する前に、在学する（又は出身）高等学校等や最寄りの大学入試センター試験利用大学で実際にイヤホンが耳に装着できるかどうかを確認し、イヤホンが耳に装着できない場合、必ず出願時にイヤホン不適合措置を申請してください。

(3) 申請方法

イヤホン不適合措置を希望する志願者は、出願時に「イヤホン不適合措置申請書」を提出する必要があります。次の枠内の①又は②の方法により申請書を入手し、最寄りの大学入試センター試験を利用する大学（大学入試センターのホームページ（→裏表紙）に掲載しています。）の入試担当窓口にて志願者本人が出向き確認の署名をしてもらった後、志願票（第Ⅱ面）の所定の欄（→p.20）に貼り付けて出願してください。

詳しい申請書の記入方法や申請方法は、ホームページの「イヤホン不適合措置申請書」に記載してあります。

なお、離島に居住している等の理由で、最寄りの大学入試センター試験を利用する大学で確認の署名をしてもらうことが困難な場合は、平成 29 年 9 月 22 日（金）までに大学入試センター事業第 1 課（→裏表紙）に連絡してください（出願期間は志願者問合せ専用電話が混み合いますので、早めに連絡してください。）。

① 大学入試センターのホームページ（→裏表紙）の「英語リスニングについて」から「イヤホン不適合措置申請書」をダウンロードしてください。

② ホームページからダウンロードできない場合は、次のア・イを封筒（表面に「イヤホン不適合措置申請書請求」と朱書すること。）に入れて大学入試センター事業第 1 課（→裏表紙）に送付してください。

ア 氏名、現住所、電話番号、在学（又は出身）学校名を記入した便せん等

イ 返信用封筒（長形 3 号：縦 23.5cm・横 12cm、表面に現住所・氏名を記入し、82 円分（速達希望の場合は 362 円分）の切手を貼る。）

(4) 注意事項

出願時にイヤホン不適合措置の申請がない場合は、試験当日にイヤホンが耳に装着できないと申し出ても、ヘッドホンの貸与は行いません。この場合、イヤホンを手で押さえて受験することになります。

なお、出願後の不慮の事故等（交通事故、負傷、発病等）のため、イヤホンを装着できなくなった場合は、出願後の不慮の事故等による受験上の配慮（→p.38）によりヘッドホンの貸与を申請することができます。

6 解答時間中の事故等と再開テスト

(1) 解答時間中の事故等への対応

- ① IC プレーヤーの音声が停止する等により聞き取れなくなった場合又は問題冊子の乱丁、落丁等、解答に支障がある場合は、ためらわずに黙って手を高く挙げて、監督者に知らせてください。試験が終わってからこれらを申し出ても、救済措置はありません。
- ② 解答時間中に挙手した場合の監督者との意思伝達については、周囲の受験者の解答の妨げにならないよう筆談で行います。
- ③ IC プレーヤーの不具合等を申し出た受験者については、申出の内容や再開解答番号（試験が中断した時点で解答していた番号）について確認した上で、試験終了後に「再開テスト」を実施します。
- ④ 体調不良等により退室が必要となる受験者がいる場合は、監督者から周囲の受験者に対し、試験の中断を指示することがありますので、その際は、監督者の指示に従ってください。中断を指示された受験者は「再開テスト」を受験することができますので、試験終了まで静かに待機してください。

(2) 再開テスト

解答時間中に、解答が続行できないような IC プレーヤーの不具合や不慮の事故等があった場合には、監督者の指示で試験を中断することがあります。このような場合には、リスニングの試験終了後、別の IC プレーヤーを使って当初解答していたものと同じ試験問題により、中断した設問から試験を再開します（この試験を「再開テスト」といいます。）。

なお、解答時間中に日常的な生活騒音等が発生し、解答に支障があったと申し出ても、再開テストの対象とはなりません（➡p.47）。